

# 熊大病院ニュース

第27号

Kumamoto University Hospital

熊本大学病院 広報誌



熊本大学病院

- 【理念】** 本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。
- 【方針】** ・高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供  
・患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践  
・先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成  
・地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成
- 【患者さんの権利】** ・個人の尊厳と意向が尊重されます。  
・良質な医療を公平に受ける権利があります。  
・十分な説明と情報提供を受ける権利があります。  
・自分の意思で医療を選ぶことができます。  
・プライバシーや個人情報が保護されます。
- 【患者さんの責務】** ・自分の健康状態について正確に伝えてください。  
・治療に積極的に参画してください。  
・社会のルール、本院の規則を守ってください。  
・迷惑行為を行わないでください。  
・医療費を遅滞なく支払ってください。

特集 ..... P1

**前立腺がんについて**  
「熟年男性は要注意！  
増えています、前立腺がん」

新任役職者紹介 ..... P2

**眼科**  
**整形外科**

イベント紹介 ..... P2

**病院名称変更**  
**記念式典** ..... P3

知っ得！納得！Q&A ..... P4

**風疹の予防について**

診療科・部門紹介 ..... P5

**\*神経精神科**  
**\*災害医療**  
**教育研究センター**

看護部だより ..... P6

**医療依存度の高い患者の在宅療養に関わる看護職支援事業**

総合案内 ..... 裏表紙



2019年 夏号



## 病院敷地内全面禁煙のお知らせ

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場)および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。

## 看護師募集中

最先端の医療に携わってみませんか？

育児休業復帰支援プログラム実施中です！

担当：熊本大学病院 総務課 人事給与担当

☎ 096-373-5913



# 熟年男性は要注意！ 増えています、前立腺がん。

【監修】熊本大学病院 泌尿器科 神波 大己 教授

## 前立腺がんは高齢者に発症しやすい癌

前立腺癌は、わが国においても人口の高齢化や生活の欧米化とともに急激に増加しています。2018年の癌罹患数予測では、1年間に8万人弱の男性が前立腺癌に罹患すると予測されており、男性の癌としては胃癌、大腸癌、肺癌について第4位となっています。前立腺癌は50歳未満の人ではかかりにくく、高齢者に発症しやすい(ピークは60～70歳代)癌です。

前立腺癌は早期には症状がないため気がつきにくく、発見されないまま進行すると、尿が出にくい、尿が近いといった前立腺肥大症に似た症状が現れてきます。さらに進行すると骨などに転移しますが、骨に転移すると腰痛や手足が痛むなどの症状を引き起こします。一般的に前立腺癌は他の癌に比べて進行が遅いと信じられていますが、転移するとやはり致命的になりえます。つまり、無症状の段階で発見することが重要なのです。

前立腺癌早期診断の第一歩は、血液検査で前立腺特異抗原(PSA)というタンパク質を測定することです。PSAは4.0ng/mL以下が正常値とされています。男性は60歳になったらPSAを測定することをお勧めします。前立腺癌を確定診断するには針生検という体に負担を伴う検査が必要ですが、PSAが4を超えていても必ずしも前立腺癌とは限りません。直腸指診、超音波、MRIなどの検査で前立腺癌が疑わしい場合にのみ行います。泌尿器科専門医が的確に判断しますので安心してご相談ください(図1)。

図1 前立腺特異抗原(PSA)値の目安

| PSA値の目安       |          |  |
|---------------|----------|--|
| 4.0ng/mL以下    | 正常値      | 定期的にPSA検査をして経過を見守ります。                  |
| 4.1～10.0ng/mL | グレーゾーン   | がん以外に前立腺肥大症など前立腺に関する病気が含まれている可能性があります。 |
| 10.1ng/mL以上   | がんが疑われます | がんの可能性が高くなります。                         |

早期前立腺癌が発見された場合、手術(最近ではロボット手術)、放射線(IMRTや小線源療法、重粒子線、陽子線)のどちらでも完治が期待できます。また超早期癌の中には治療をしなくても進行しない癌が存在することが知られており、一定の条件を満たせば無治療で経過観察することもあります。担当医と納得するまで治療法を相談するとよいでしょう。たとえ進行癌で発見されたとしても、前立腺癌の治療薬はたくさんあり、しかも新しい薬もつぎつぎと開発されていますので悲観する必要はありません。粘り強く治療を続けることが肝要です。



【写真】手術支援ロボット da Vinci (ダヴィンチ)



眼科 教授

井上 俊洋

2019年1月1日付で、眼科の教授、診療科長を拝命いたしました。

私は生まれも育ちも熊本で、熊本大学の卒業です。1997年に医学部を卒業し、熊本労災病院、公立多良木病院、高千穂町国民健康保険病院などで、地域の眼科診療に携わってきました。また、北里大学眼科と、米国Duke大学眼科にそれぞれ2年間留学し、最先端の白内障、屈折矯正、神経眼科、緑内障の診療と研究に取り組んできました。

現在、私自身は国内の失明原因第1位

である緑内障の克服を最重要課題としていますが、教室としては、網膜硝子体疾患、ぶどう膜炎、斜視弱視など、幅広い眼科疾患に対応できる体制を整え、年間1700件超の手術に加え、レーザー治療や分子標的薬を用いた治療にも積極的に取り組んでいます。

患者さんに信頼されるとともに、世界に向けて情報を発信し、医療の進歩に貢献できるような医師を育てる組織でありたいと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



整形外科 教授

宮本 健史

平成31年4月1日付で整形外科教授・リハビリテーション部長を拝命いたしました宮本健史です。

私は熊本大学の出身で、医学部卒業後すぐに熊本大学整形外科学教室に入局いたしました。その後、縁あって慶應義塾大学で17年間、今回熊本大学に戻る前の3年半は東京大学と慶應義塾大学との兼任という形で整形外科に関する研鑽を積んで参りました。

整形外科は骨や関節、靭帯、筋肉、腱、脊椎、骨軟部腫瘍、外傷など、様々な疾患を扱っており、ギプス固定や装具、投薬、リハビリテーションなどによる保

存療法(非手術的治療)から、手術による外科的な治療まで、幅広く対応しております。内視鏡を用いた低侵襲な手術や急速に進歩する最先端な治療法など、患者さんの病状や希望にしっかりと対応できる体制を整えております。骨粗鬆症や関節リウマチの診療にもあたっており、運動器のトータルマネジメントに努めています。

疾患の病態解明や新たな治療法開発のためのリサーチも積極的に推し進め、病診連携や病病連携を推進することで、患者さんには優しく、病気には厳しい診療体制を構築してまいります。

## 🍀 イベント紹介

一般財団法人 恵和会の助成により開催されている院内のイベント等をご紹介します。



## お花見コンサートを開催

2019年3月11日(月)、東病棟12階多目的ホールにて、お花見コンサートが開催されました。熊本大学教育学部音楽科のみなさんが、ジブリ作品の楽曲をピアノやクラリネット、ヴァイオリン、トーンチャイム等で演奏し、最後は全員合奏で「ふるさと」の演奏がありました。参加された患者様は楽しそうに耳を傾けていました。

# 「熊本大学医学部附属病院」から 「熊本大学病院」へ名称変更致しました。



## 病院名称変更記念式典を執り行いました。

本院は、本年4月1日より、大学の組織的位置づけを「医学部附属」から「大学附属」とし、病院名称も「熊本大学医学部附属病院」から「熊本大学病院」と変更いたしました。

この病院名称変更を記念する式典が、2019年4月5日(金)、原田信志学長をはじめ、理事、副学長、病院教職員等総勢約100名が出席する中執り行われました。

まず、原田学長から、「更なる安全で質の高い

医療を提供するため病院が自ら推進する改革を、大学は全面的にバックアップしていく」との挨拶があり、次に、谷原秀信病院長から、「県内唯一の特定機能病院として、地域医療を支え、安全安心の医療を提供していきたい」との決意表明がありました。

最後に、原田学長、谷原病院長らにより、新病院名のパネルの除幕が行われました。



【写真】前列左から中山副病院長、谷原病院長、原田学長、有松理事  
後列左から増村事務部長、山本看護部長、福井副病院長、  
宇宿副病院長、辻田副病院長



【写真】新病院名の除幕の様子



## 「風疹の予防について」

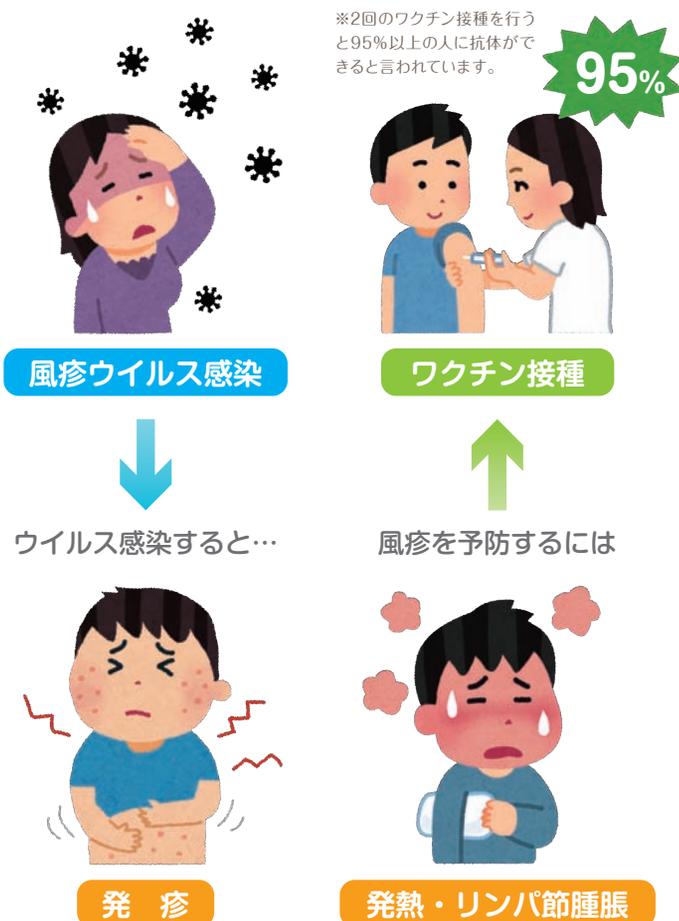
風疹は、別名「三日はしか」とも呼ばれ、麻疹(はしか)、水痘(水ぼうそう)、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)と並び、ウイルスによって起こる感染症として知られています。2018年には2,917名の感染者が出るなど都市部を中心に流行しており、2019年は更に感染者が増えているため、その対策が急務となっています。

### Q 風疹とは?

風疹は風疹ウイルスの感染によって起こる疾患であり、2~3週間の潜伏期間を経て、発熱、発疹、リンパ節腫脹を主な症状として発症します。一人の感染している人から風疹の免疫がない5~7人の人に感染する力があります。この風疹ウイルスは飛沫感染といって、接触だけではなく、くしゃみなどからも感染する可能性があります。発疹が出てくる前後約1週間は感染力があるといわれています。

### Q 感染するとどのような症状がでますか?

発熱、発疹、リンパ節腫脹が主な症状ですが、症状が出にくい場合や逆に高熱や発疹が長く持続する場合があります。稀に脳炎や血小板減少などの重篤な合併症を起こすこともあります。また風疹に対する免疫が弱い妊娠20週頃までの妊婦さんが感染すると胎児にも感染し、先天性心疾患、難聴、白内障を三大症状とする先天性風疹症候群をもった子供が生まれてくる可能性があります。



### Q 予防方法・治療方法はありますか?

風疹には特別な治療法はありませんが、多くの場合「三日はしか」というように自然と良くなります。予防法としてはワクチン接種があります。2回のワクチン接種を行うと95%以上の人に風疹に対する抵抗力ができるといわれており、現在は1歳以降と小学校就学前に計2回のワクチン接種がされています。しかし、過去には2回接種されていない時期もあり、特に昭和37年4月から昭和54年4月に出生した男性の方は1回もワクチン接種が実施されていないため、現在抗体検査やワクチン接種の呼びかけを行なっています。

## 神経精神科



▲竹林実教授

当科は、「気分が落ち込む」「眠れない」「物忘れが気になる」「コミュニケーションがうまくできない」「学校に行きたくない」など、子供から高齢者まで幅広く、さまざまな精神的問題に対処する診療科です。また、精神的な問題を抱えた方の、身体疾患の治療(手術など)を行う際に、サポー

トも行います。がん患者の精神的ケアも重点的に行っています。気分障害(うつ病、双極性障害)、認知症、児童・思春期の疾患、統合失調症、てんかん、せん妄などが主な対象疾患になり、専門外来を開設し、一般病棟と同じ構造の入院治療病棟も完備しています。

診断は、特に入院では成育・生活歴を含めた問診、心理検査、脳画像検査などを行い複数の専門医で総合的に判断します。治療については、カウンセリング、薬物療法(難治性疾患治療薬を含む)、リハビリテーション、身体療法(電気刺激療法)などを、医師・看護師だけでなく、多職種チームで治療にあたります。

こころの問題でお困りな方がおられれば、どなたでも受診・紹介をお待ちしています。

## 災害医療教育研究センター



▲笠岡俊志センター長

災害医療教育研究センターは災害医療に関する教育や研究を推進するセンターとして平成30年10月1日に設置されました。その目的は災害医療に従事する人材養成を行うとともに、行政や地域医療とも連携して災害医療提供体制の発展に貢献することです。

センターが担う主な業務は、①高度災害医療人材の養成、②災害医療に関する研究、③地域住民への防災教育などです。特に文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された「多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成」事業において、超急性期～慢性期までを視野に入れた多職種の人材養成を行って参ります。

現在のスタッフは教授1名、特任助教1名、臨床検査技師1名、コーディネーター1名、事務職員3名と少数ですが、災害医療の教育や研究においてわが国をリードするセンターに発展できるよう頑張ってお参ります。今後とも皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



## 医療依存度の高い患者の在宅療養に関わる看護職支援事業

### 熊本県補助事業

当院看護部は平成30年度より熊本県補助事業として、専門看護師・認定看護師による「医療依存度の高い患者の在宅療養に関わる看護職支援事業」に取り組んでいます。本事業の4本柱として①研修会の開催、②相談システム、③同行訪問、④出張カンファレンスを掲げ、回復期病棟や訪問事業所、介護施設などに従事する看護職員を対象としています(図1)。

昨年度は、当院で開催した研修会に、延べ242人の参加がありました。研修会の内容は、終末期のがん患者、人工呼吸器装着患者、慢性疾患を持つ患者の3つに分け、患者を統合的に看ることを意識したプログラムに構成しています。さらに、多職種専門職による「栄養管理」、「薬剤管理」などの特別講義を企画し、より多方面から在宅に関わる看護職の知識・技術の獲得につながる内容になっています。

また、昨年度は圏域からの要望に応じた研修会を4圏域で実施し、184人の参加がありま

した。それぞれ異なる内容でしたが、参加者の満足度はとても高いものでした。相談は、在宅や介護施設に従事する看護職が抱える困難感にタイムリーに答えることができるようなシステムを構築しました。昨年度の相談件数は4件と少なめでしたが、メールや電話でも受けつけていますので、ぜひご活用いただければと思います。

幸い、昨年度末より、在宅で療養している患者様を訪問看護師とともに同行訪問する機会が増えています。訪問看護師と患者・家族の情報やアセスメントを共有し、ケア方法の変更や追加を共に考え、よりよい提案につなげられるようにしています。

以上より、私たち、専門・認定看護師は本事業を通じて、入院中から在宅に戻られる患者・家族の希望や価値観を尊重し、安心して療養生活を送れるように、病院と在宅をつなぐケアを目指して活動しています。本年度の研修プログラムなど詳細は看護部ホームページをぜひご確認ください。

<http://www.kumamoto-u-kango.com/specialists/izon01.html>

図1 熊本県補助事業の紹介

